

「今月の1枚」



写真 1 (2012年6月3日 高知県神峯(こうのみね) 神社)



写真 2 (2012年6月3日 高知県神峯(こうのみね) 神社)



写真3 同じ仲間のムサシアブミ (2012年5月13日 高知県竹林寺)



写真4 同じ仲間のムサシアブミ（2012年5月13日 高知県竹林寺）

マムシグサ（サトイモ科テンナンショウ属） *Arisaema serratum*

マムシグサは、北海道から九州まで広く分布し、形態や色も大変変異に富んでいます。

写真の緑の筒状の部分は仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれる葉が変形したものでこの中に花序（花の集まり）があります。

この仲間は多年草で、地下に球状の地下茎（よく芋と呼ばれます）があり、これが小さいうちは雄、大きくなると性転換して雌になります。

マムシグサを含むテンナンショウは一般にヘビクサとかヘビコンニャクなど「ヘビの何とか」と呼ばれることが多くあります。これは、この花の姿がヘビの鎌首を持ち上げた姿にそっくりだからです。同じ仲間のムサシアブミもヘビシャクシ、ヘブンマクラなどと呼ばれています。

（写真・文 河原 孝行）

（No.235 2013.1.8 掲載）